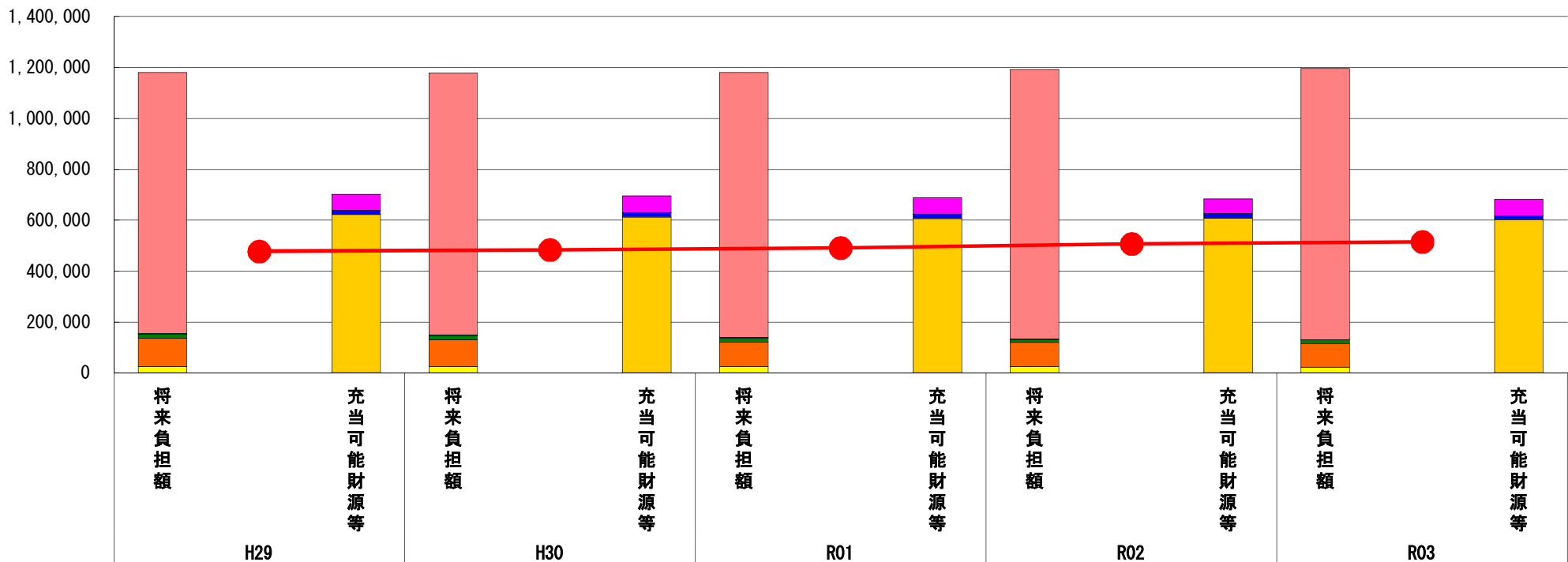


(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和3年度

和歌山県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		1,024,364	1,029,197	1,041,122	1,056,650	1,065,760
	債務負担行為に基づく支出予定額		3,443	3,154	2,867	1,630	1,519
	公営企業債等繰入見込額		16,082	15,220	14,301	13,523	12,498
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		110,926	105,665	97,840	95,013	93,163
	設立法人等の負債額等負担見込額		25,558	25,218	24,281	24,303	23,798
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		63,890	65,072	63,235	58,235	64,427
	充当可能特定歳入		16,456	18,965	18,808	17,123	15,648
	基準財政需要額算入見込額		621,795	611,568	606,506	608,772	601,549
(A) - (B)	将来負担比率の分子		478,231	482,848	491,862	506,989	515,114

分析欄

令和3年度の将来負担比率の分子は、防災・減災、国土強靱化のための緊急対策等に伴う地方債残高の増加等により、前年度に比べ81億円増加となった。

今後、同規模で県債を発行していった場合、確実に将来負担が増加していくことが想定されるため、事業の効率化・重点化によりこれらの県債発行を抑制するなど行財政改革の推進により健全化を図っていく。